

犬山市かわまちづくり計画

【第2回(令和7年1月30日)時点】

犬 山 市

目次

<様式1>「かわまちづくり」計画の登録について（申請）	1
<様式2>市町村及び河川の概要	2
1. 市町村等の概要	2
2. 河川の概要	2
3. かわまちづくりの方針	5
4. 推進体制・取組内容	20
5. 安全な河川利用に向けた取組	21
6. 都市・地域再生等利用区域の指定に関する取組	22
7. 生物の生息・生育・繁殖の場の保全・創出に関する取組	23
<様式3>ソフト施策の個別施策計画書	24
1. 河川名	24
2. 提案事業の実施範囲	24
3. 提案事業の概要	24
<様式4>ハード施策の個別整備計画書	31
1. 河川名	31
2. 整備範囲	31
3. 整備内容	32
4. 整備の実現方策	39
5. 多自然川づくりに関する事項	40
6. その他特筆すべき事項	40
<様式5>維持管理計画書	41
1. 継続的な有効利用に関する計画	41
2. 維持管理計画	41

<様式1>

(番号)
令和〇年〇月〇日

(地方整備局長経由)
国土交通省 水管理・国土保全局長 殿

犬山市長

「かわまちづくり」計画の登録について（申請）

「かわまちづくり」支援制度実施要綱第7の規定に基づき、下記のかわまちづくり計画について申請いたします。

記

名 称：犬山市かわまちづくり計画
推進主体：犬山市

以上

1. 市町村等の概要	
① 都道府県名	愛知県
② 市町村名	犬山市
③ 人口	71,339 人 (令和 6 年 11 月時点)
④ 面積	74.90km ²
2. 河川の概要	
① これまで実施済みの関連施策	
実施場所 木曾川水系木曾川 内田地区 施策目的 河川利用の推進 事業期間 令和 4 年度 事業主体 犬山市 整備内容 彩雲橋公衆トイレの改築	写真
実施場所 木曾川水系木曾川 内田地区 施策目的 河川利用の推進 事業期間 令和 4～令和 5 年度 事業主体 犬山市 整備内容 市道犬山 395 号線の改修	写真
実施場所 木曾川水系木曾川 栗栖地区 施策目的 自然再生 事業期間 令和 2 年度 事業主体 木曾川上流河川事務所 整備内容 通水阻害物となる栗栖園地南側の竹林伐採	写真
実施場所 木曾川水系木曾川 栗栖地区 施策目的 河川利用の推進 事業期間 令和 4 年度 事業主体 犬山市 整備内容 栗栖園地南側へ芝生を植栽 (2,250 m ²)	写真
実施場所 木曾川水系木曾川 栗栖地区 施策目的 河川利用の推進 事業期間 令和 5 年度 事業主体 犬山市 整備内容 栗栖園地南側へ芝生を植栽 (1,260 m ²)	写真

② 市民や民間事業者による河川利活用状況

●木曾川鵜飼・遊覧

木曾川での鵜飼は1300年前に起源を持ちますが、犬山での鵜飼は万治2（1659）年に、犬山城主3代目の成瀬正親が故郷の足助から鵜匠を呼び寄せ、幕府の御料鵜飼として始めたと言われています。その後、約150年間鵜飼が推奨され、合わせて鵜飼町や鵜飼湊もできました。しかし、犬山城主6代目の成瀬正典が隠居後、殺生禁令が出されることによって、鵜飼が中止となり、鵜匠が城下から追放されました。明治32（1899）年に、鵜飼鎌次郎の尽力により復活し、昭和39（1964）年からは観光目的の市営鵜飼となりました（遊覧船の運航は木曾川観光株式会社が担う）。

また、昭和60（1985）年に木曾川犬山鵜飼漁法が市指定文化財に指定されました。

毎年6月1日の「鵜飼開き」から始まり、10月15日まで行われています。



●日本ライン夏まつりロングラン花火

例年8月10日に実施されていましたが、木曾川河畔の狭小な区域内に多数の来場者が集中し、混雑した状況下での事故の危険性が生じていたため、安全確保の観点から踏まえ、令和4年度からは8月1日から10日までの毎夜、木曾川河畔において「ロングラン花火」を開催しています。45回を数える令和6（2024）年には、10日間で延べ約58,000人が訪れました。



●犬山朝市

平成4（1992）年より木曾川遊歩道で毎週日曜の朝に開催されています。地元産の季節野菜をはじめ、手づくりこんにやくや犬山茶、コーヒーや焼き菓子、パンなどバラエティ豊かな約40店舗が軒を連ねます。



●栗栖園地（桃太郎キャンプ場・YHA ラフティング）

広大な芝生広場の中ではキャンプや散策を楽しむことができます。令和5（2023）年からは栗栖桃太郎発展会を中心とした地域の方などと協働で芝張り作業を実施し、芝生エリアの拡張を行っています。

また、岐阜県美濃加茂市から本市の桃太郎港までを下るコースのラフティングも行われています。



●ミラマチ栗栖（栗栖地区）

栗栖地区のまちづくりや地域社会の発展のための市民団体として平成30（2018）年に発足しました。木曾川の原風景を取り戻すための竹林整備活動や野縁公苑整備活動をはじめ、きのこ作りイベント、子どもキャンプなど様々な活動をしています。



●対話の場「河畔 de カタリーヴァ」による実証実験（内田地区）

令和4（2022）年から内田地区の河畔空間を高質化するとともに、古くて新しい観光スポットとして、また市民にとっても憩いの場となることを目指し、魅力ある河畔空間の整備に向けた調査及び検討を行っています。そのために現況測量、可能性調査、地域住民等との対話の場づくり（ワークショップ）、実証事業の実施を経て、基本構想を策定しました。



3. かわまちづくりの方針

① 地域における課題、必要性

【内田地区】

- ・ 昭和 40(1965)年頃、木曾川河畔内田地区にはかつてレジャー施設である「犬山遊園地」があり、多くの観光客が訪れていました。また河畔は旅館街としても賑わいをみせていました。日本八景に選出される木曾川の風光明媚な景観は多くの観光客と市民にとって憩いの空間となっていました。その後、長い年月を経て、モータリゼーションの発展や道路・交通網の整備により、人々の観光動向が変化すると共に、犬山観光が日帰り客中心の観光地となるに従い、内田地区は旅館数の減少や住宅が建設されるなど、土地利用が変化しています。一方で新たなホテルが開業したことを機に訪日観光客の増加など、インバウンド需要が高まりつつあり、近年の観光需要に応じた賑わいづくりを進めていく必要があります。
- ・ 木曾川河畔遊歩道についても、整備から長い年月が経過し、舗装の劣化や緑地帯の桜並木の老朽化、低木植栽の管理不足の状況となっています。
- ・ 河川堤防の役割でもあるパラペットにより視界が遮られ、河川への眺望景観の妨げとなっています。
- ・ 現在、日本ライン夏まつりロングラン花火等のイベントや犬山朝市の出店などソフト施策が展開されつつありますが、木曾川河畔遊歩道内に歩行者の通行空間と来訪者が滞留するスペースを十分確保することが困難な状況であり、ソフト施策の内容に限界が生じています。このため、河川空間に来訪者や住民がくつろぎ・集う場を創出し、滞在時間の延長や消費額の増加等、地域活性化や賑わいあるまちづくりを実現していくことが必要です。



昭和 40 年頃の木曾川河畔の様子

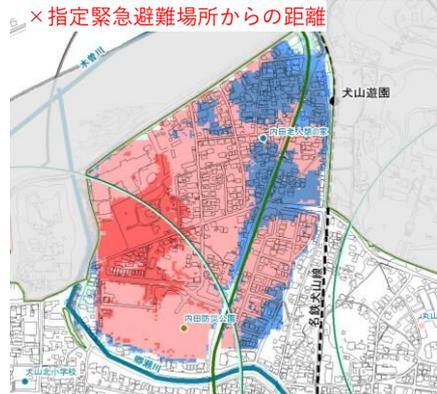


現在の木曾川河畔遊歩道の様子

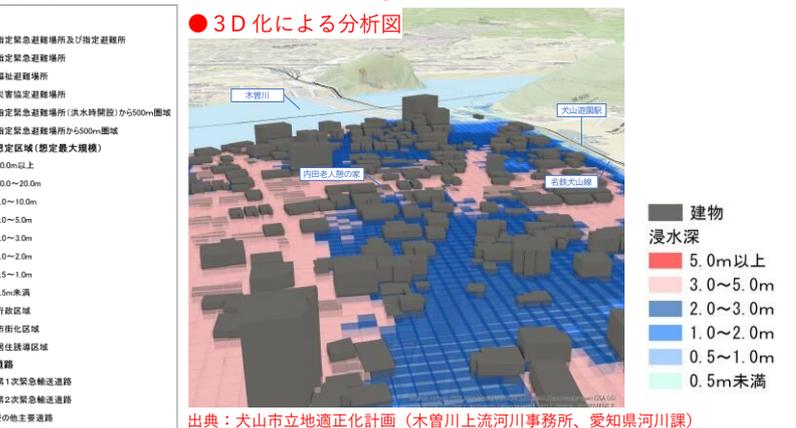
第1回意見 NO.7追記

- ・ 内田地区は木曾川による浸水リスク（洪水浸水想定区域（想定最大規模））が想定されるエリアです。指定緊急避難場所である内田老人憩いの家が浸水 3m 以上の浸水想定区域内に立地しており、浸水が想定される時は開設されないため、一部エリアで徒歩圏内に避難所がなく、広範囲で深刻な浸水となることが想定されます。
- ・ また、市域全体の広域避難場所である内田防災公園は浸水時には使用ができません。
- ・ 立地適正化計画では内田地区を居住誘導区域としつつも、災害リスクの高いエリアである「防災配慮エリア」として指定しており、居住を検討する方への災害ハザード情報の周知や警戒避難体制等の整備・強化対策を講じていくこととしています。

●想定最大規模(L2)浸水想定区域（浸水深）



●3D化による分析図



出典：犬山市立地適正化計画（木曾川上流河川事務所、愛知県河川課）

【栗栖地区】

- ・ 本市北部にある栗栖園地は日本ラインと呼ばれる四季折々の美しい河川景観が眺めることができ、また日本の原風景ともいえる里山エリアです。昭和 30(1955)年代に名古屋鉄道株式会社の観光開発により野猿公苑関連の施設が整備され、年間 20 万人以上の観光客が訪れる当時は一大観光地でした。しかし、野猿公苑が移設した後は観光客が激減し、桃太郎神社周辺の店舗数が半数以下となる等、商店が衰退しました。
- ・ 栗栖地区の木曾川河畔はかつて竹林が無秩序に繁茂しており、景観を阻害するとともに、十分な利活用がなされていませんでしたが、地域団体の活動により、竹を間引き、草木の除去により、川を望みながら歩ける竹林遊歩道の整備を進め、憩いの親水空間づくりに取り組んできました。また、市による広場の拡張により、地元住民だけでなくキャンプ等に親しむ利用者にも恵まれた名勝木曾川の景観を感じ取ってもらうことができるような空間に再生されつつあります。
- ・ 今後、これらの取組をさらに発展させ、木曾川河畔と栗栖園地、桃太郎神社、野縁公苑を一帯として、美しい景観や地域資源を保全・活用すると共に、キャンプ場やラフティング等のアウトドアアクティビティのエリアとして整備・活用することにより、地区全体の活性化を図っていくことが重要です。そのためには、栗栖園地をはじめとした施設の管理や運営のスキームを再精査・構築し、栗栖地区の住民にとっても有用で持続可能な体制づくりが求められます。



栗栖園地



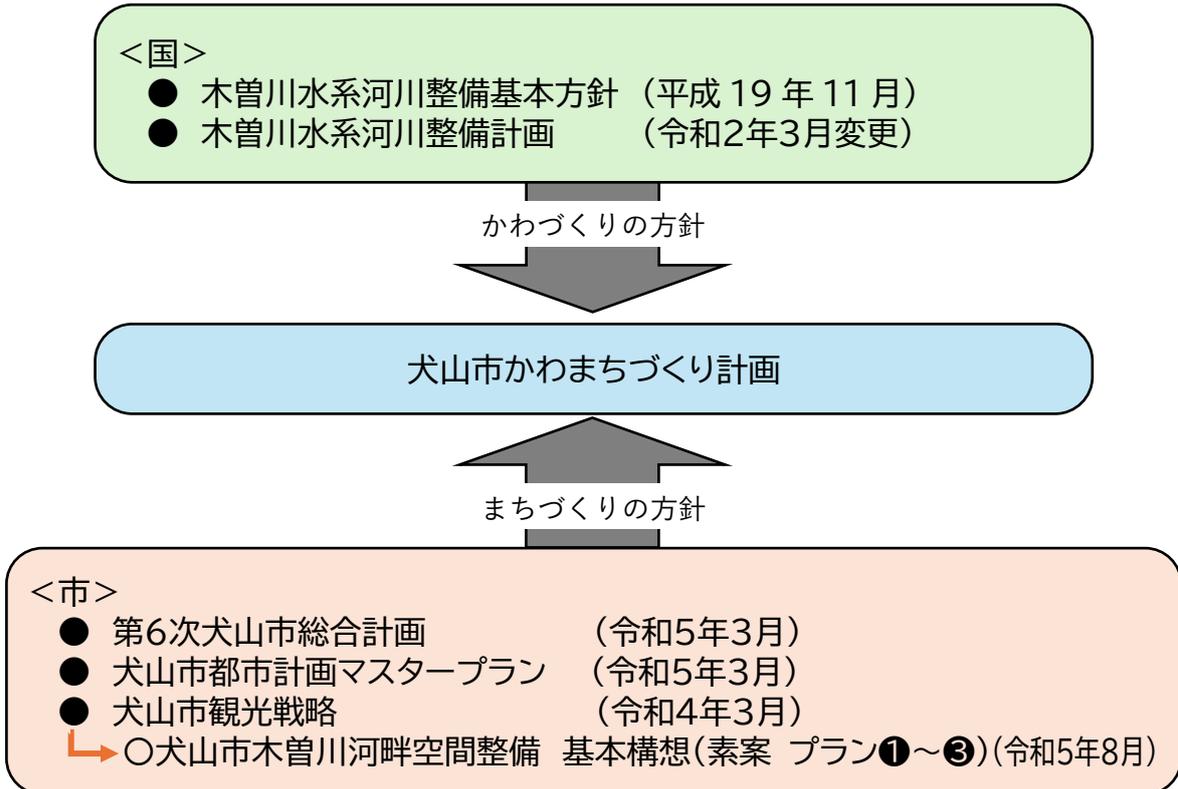
木曾川ラフティング

② 市町村の地域計画や沿川地域のまちづくりの中での河川の位置づけ

犬山市かわまちづくり計画の上位計画として、木曽川水系の整備に関する国土交通省河川局の「木曽川水系河川整備基本方針」や、中部地方整備局の「木曽川水系河川整備計画」があります。

市の最上位計画である「第6次犬山市総合計画」や、都市計画の基本方針である「犬山市都市計画マスタープラン」においても、木曽川河畔はまちの発展のため重要なエリアとしています。

また、犬山観光の体系的な計画である「犬山市観光戦略(令和4年度～令和13年度)」で定めた重点プロジェクトを推進するものとして、犬山市木曽川河畔空間整備 基本構想(素案 プラン①～③)が作成されています。



木曽川水系河川整備基本方針（平成19年11月）

●計画の概要

木曽川水系は、木曽川、長良川、揖斐川の3河川を幹川とし、長野県、岐阜県、愛知県、三重県、滋賀県の5県にまたがっており、木曽川水系を対象に河川整備の基本方針や計画を定めた計画です。以下の事項について定められている。

■河川の整備の基本となるべき事項

- (1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項
- (2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項
- (3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項
- (4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

木曽川水系河川整備計画（令和2年3月変更）

●計画の概要

河川整備計画は、「木曽川水系河川整備基本方針」に基づいた当面の河川整備を目標とするものであり、その対象期間は、洪水、津波、高潮等による災害の発生防止または軽減、河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全における整備目標に対し、河川整備の効果を発現させるために必要な期間として概ね30年間としている。

■木曽川に関する具体的整備（対象箇所を抜粋）

【治水】



栗栖園地周辺において堤防強化（堤防整備及び高水護岸整備）が位置づけられている。

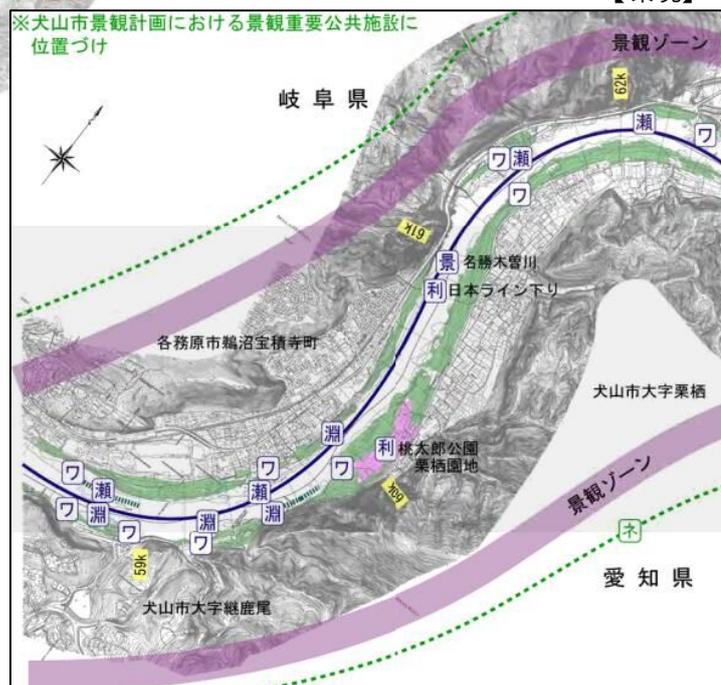
対象区域全体において日本ライン下りの利用、栗栖園地において河川利用、水面利用が位置づけられている。

該当箇所：木曽川水系河川整備計画変更
附図（治水）、附図（環境）

掲載 URL：

<https://www.cbr.mlit.go.jp/kisokaryu/kisosansen-plan/>

【環境】



第6次犬山市総合計画 (2023(令和5)年3月策定)

● 将来の都市構造(土地利用)

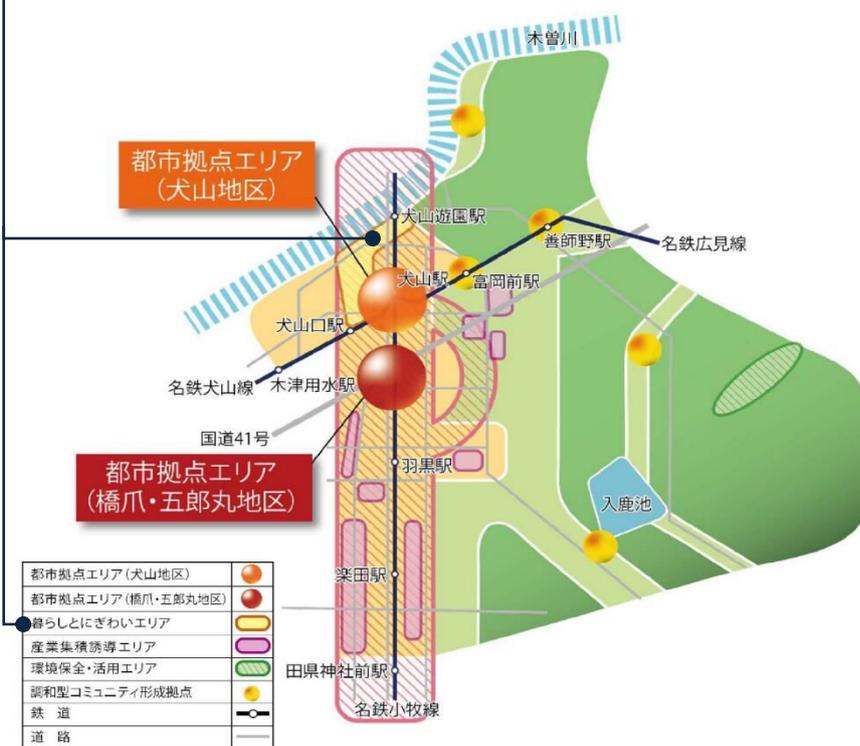
基本方針

本市の特徴的な地域の良好な歴史的資産や自然環境との調和(共存・共生)を図りながら、豊かな市民生活の実現や産業経済活動の振興のため、住・農・商・エのバランスの取れた都市の形成を図ります。

河川の位置づけ

■暮らしとにぎわいエリア

歴史、文化、自然及び人の暮らしが共存している地域特性を活かし、多くの来訪者でにぎわうエリアとするため、犬山城や城下町、木曾川などの地域資源を有効に活用したまちづくりを進め、人が行き来する活気ある空間や風光明媚な環境を活かした憩いの空間としての土地利用を進めつつも、エリア内の住民の快適な生活につながる土地利用を進めます。



該当箇所：41、43、45 ページ

掲載 URL： https://www.city.inuyama.aichi.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/009/687/000_zentai.pdf

● 将来都市構造

■ 人と自然、歴史文化が調和した都市の形成(抜粋)

木曾川や東部の丘陵地にある豊かな自然環境や身近な自然とふれあえる環境を守り育てていくとともに、地域固有の歴史文化を保存、活用し、人の暮らしと自然、歴史文化が調和した犬山らしい特色ある地域づくりを図ります。

※内田地区は準地区拠点、栗栖地区はコミュニティ拠点に位置づけられています。

栗栖地区と市街地をつなぐ唯一の路線である県道栗栖犬山線の安全性の向上に向けて、歩道設置等の道路整備を関係機関と連携・協議しながら促進し、公共交通軸によって生活利便性の維持向上を図ることとしています。

● 都市づくりの方針

1 土地利用の方針

■ 中心市街地(商業業務地・複合住宅地)(抜粋)

犬山城下町地区や内田地区の木曾川河畔では、居住環境と商業、観光・交流施設等が共存する商業業務地及び複合住宅地として、町並みとの調和や来訪者の増加に配慮しながら、まちの魅力を高める土地利用を維持・誘導するとともに、良好な町並み景観を形成します。

河川の位置づけ

2 交通の方針

■ 歩行者・自転車空間(抜粋)

犬山城下町地区においては、歴史的な町並みや木曾川沿いの魅力をより一層高めるとともに、犬山駅から城下町、犬山城、木曾川河畔、犬山遊園駅までの回遊性を高めるような魅力的なルートの形成により、居心地が良く歩きたくなるウォークアブルな地区を目指します。また、「その場の価値」を伝えることができる案内看板(サイン)の設置など犬山市観光戦略に基づく整備や仕掛けづくりを進めることで、城下町地区と木曾川沿い地域とのつながりを強化し、一層の交流を促進します。

● 将来都市構造図(拠点・軸(ネットワーク))



●地域別構想

1)犬山地域

<犬山地域のまちづくり目標>

都市の魅力を活かした歴史情緒と活気にあふれる、歩いて楽しいまち

<地域の分野別まちづくり方針>

- 犬山城下町や内田地区（木曾川河畔）では、居住環境に配慮したまちの魅力を高める商業、観光交流施設等の立地を促進します。
- 内田地区の木曾川河畔において、河川空間を活かした居心地が良く歩きたくなるウォークアブルな空間形成を目指します。
- 犬山遊園駅前における誘導サインの配置や木曾川河畔の整備など地域全体を見据えた空間形成を検討します。
- 木曾川については、各務原市との連携による良好な景観形成を図りつつ、河川沿いや緑道などの自転車・歩行者ネットワーク、水と緑のネットワークとして利活用を進めます。
- 洪水により広範囲で家屋が倒壊・流失が想定される木曾川沿いの地域では、早期の避難行動につながる情報の充実や警戒避難体制の強化等を進めるとともに、被災することを想定した復興事前準備の検討を進めます。

2)城東地域

<城東地域のまちづくり目標>

豊かな自然環境を遊びや学びに活かし心豊かに暮らせるまち

- 栗栖地区と市街地をつなぐ唯一の路線である県道栗栖犬山線の安全性の向上に向けて、歩道設置等の道路整備を関係機関と連携・協議しながら促進します。
- 木曾川や新郷瀬川、中島池周辺のビオトープや遊歩道などの水辺空間、里山の自然歩道を活かした水と緑のネットワークの形成を図ります。
- 洪水により広範囲で家屋が倒壊・流失が想定される木曾川沿いの地域では、早期の避難行動につながる情報の充実や警戒避難体制の強化等を進めるとともに、被災することを想定した復興事前準備の検討を進めます。

該当箇所：49、50、53、57、62、87-89、102-104 ページ

掲載 URL：https://www.city.inuyama.aichi.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/001/201/toshimas.pdf

● 犬山らしさの基本コンセプト

犬山三景 水景・城景・緑景

日本ライン観光の再発見・水がはじまるどころ・水が育む城下町と緑の自然

水があることで舟運があり、要害堅固な城ができ、産業が集積する城下町が形成されたこと、そして、現代に伝わる犬山祭や鶴飼などの伝統文化が生まれ、川・水の恵みによって実り豊かな里山ができたこと、つまり水の恵みこそが地域や歴史、人の営みを繋ぎ、全体を結ぶ基本的資源である、その上に城、緑がある。基本コンセプトは景観だけでなく、観光のための空間整備・資源・サービスの創造・提供、人材育成、広報活動、そして観光まちづくりに取り組む際に常に立ち返り、根拠を見つめ直す「原点」として規定しています。

● 3つの基本理念

ゆっくりと安心して歴史・文化・自然が楽しみ、地域も潤う(コンフォタビリティ)

- ・ 木曾川河畔や東部丘陵地域の里山風景など、多様な自然・景観資源を有しています。
- ・ これら先人から継承した資源を大切に育てながら、観光分野でも利活用していくことで、犬山観光を更なる高みに到達させます。
- ・ 日帰り観光客には、各所で体験、購入促進に繋がるコンテンツや商品を揃えとともに、複数箇所の立ち寄りを促すことで、滞在時間の延長と消費の拡大を実現します。
- ・ 宿泊施設の充実、朝晩の魅力づくり、などにより「近場でも泊まってゆっくり楽しむ犬山観光」を実現し、宿泊者増加による観光消費の拡大を達成します。 等

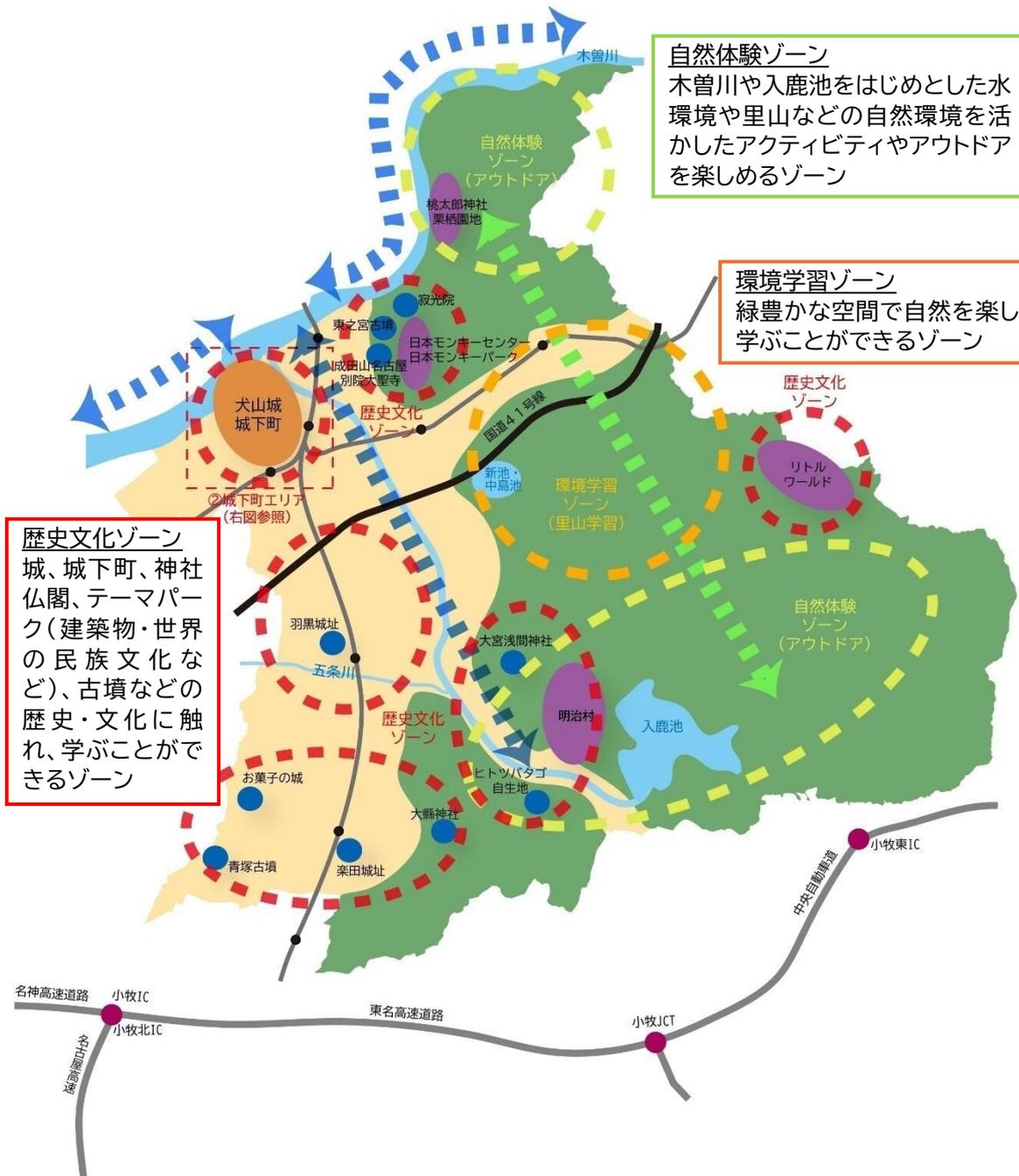
犬山ならではの感動が得られる(オリジナリティ)

- ・ 木曾川では「日本ライン」という古くて新しい魅力と価値の再構築を進めます。 等

犬山人のおもてなしに出会える(ホスピタリティ)

- ・ 持続可能で成長し続ける観光地を目指し、市民、事業者、観光客が共存・調和できる状況を実現します。そのために、観光関係者などによる対話の場を通じ、市民の観光への理解と共感、そして関心を高め、参画、応援する人を増やします。 等

●将来構想図(市全域)



自然体験ゾーン
木曽川や入鹿池をはじめとした水環境や里山などの自然環境を活かしたアクティビティやアウトドアを楽しめるゾーン

環境学習ゾーン
緑豊かな空間で自然を楽しみ、学ぶことができるゾーン

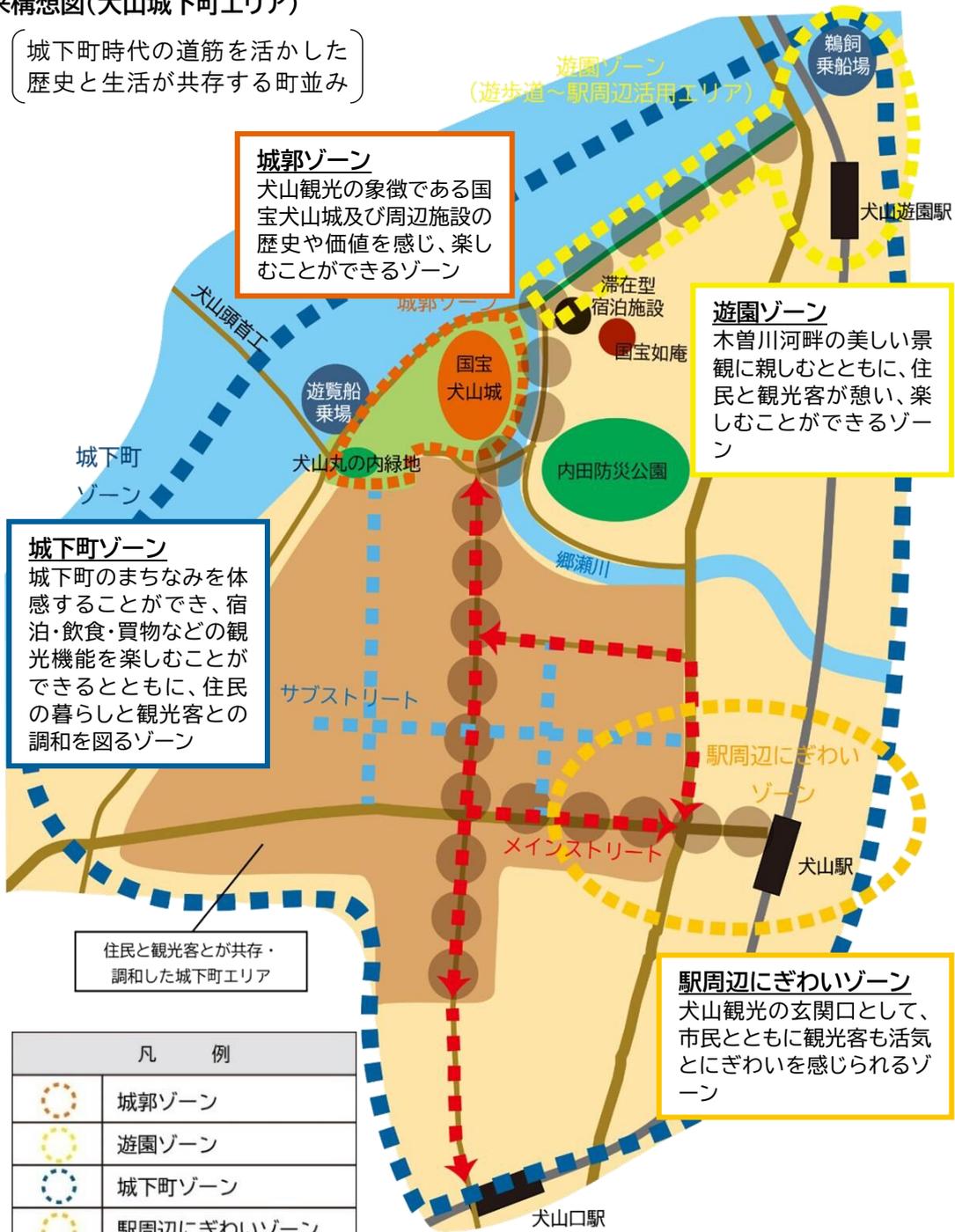
歴史文化ゾーン
城、城下町、神社仏閣、テーマパーク(建築物・世界の民族文化など)、古墳などの歴史・文化に触れ、学ぶことができるゾーン

凡 例	
	歴史文化ゾーン
	環境学習ゾーン
	自然体験ゾーン
	鉄道網
	高速道路インターチェンジ
	河川

	水のつながり	犬山市の水景を表す入鹿池、五条川、新郷瀬川、多くのため池、木曽川の水のつながり
	城のつながり	犬山市の城景を表すエリア(詳細は右図参照)
	緑のつながり	犬山市の緑景を表す栗栖から八曾までの緑のつながり

●将来構想図(犬山城下町エリア)

(城下町時代の道筋を活かした
歴史と生活が共存する町並み)



城郭ゾーン
犬山観光の象徴である国宝犬山城及び周辺施設の歴史や価値を感じ、楽しむことができるゾーン

遊園ゾーン
木曾川河畔の美しい景観に親しむとともに、住民と観光客が憩い、楽しむことができるゾーン

城下町ゾーン
城下町のまちなみを体感することができ、宿泊・飲食・買物などの観光機能を楽しむことができるとともに、住民の暮らしと観光客との調和を図るゾーン

駅周辺にぎわいゾーン
犬山観光の玄関口として、市民とともに観光客も活気とにぎわいを感じられるゾーン

住民と観光客とが共存・調和した城下町エリア

凡 例	
	城郭ゾーン
	遊園ゾーン
	城下町ゾーン
	駅周辺にぎわいゾーン
	住民と観光客とが共存・調和した城下町エリア
	公園
	船着場
	鉄道網
	道路
	遊歩道



<犬山市観光戦略における重点プロジェクトについて>

犬山市観光戦略においては、今回対象とする木曾川河畔内田地区・栗栖地区を重点プロジェクトに位置付けています。

●重点プロジェクト 遊園ルネサンス

2022（令和4）年3月に、名鉄犬山ホテル跡地に新たなホテル（ホテルインディゴ犬山有楽苑）が開業したことを契機として、内田地区の河畔空間の高質化を推進し、古くて新しい観光スポットとして、そして市民にとっても憩いの場となることを目指し、遊歩道の整備を図ります。これにより、犬山駅から城下町、国宝犬山城、木曾川河畔、犬山遊園駅につながる回遊ルートを実現します。

ハード整備だけではなく、ソフト事業も積極的に展開します。具体的には20年以上の歴史がある犬山朝市の充実、宵のいぬやマルシェの本格実施、そして日本ライン夏まつり花火をはじめ、飲食や物販事業者の誘致など、地域住民との調和を図りながら新たな賑わいと憩いの場所づくりを進めます。

整備箇所の多くは木曾川河川敷内であることから、国との連携・調整を念頭に進めます。また河川敷地占用許可準則に基づく区域指定や管理団体認定の仕組みを活用し、エリアマネジメントを意識した活用手法を検討・実施します。

●重点プロジェクト 日本ライン再発見ルート

日本ラインと呼ばれる美しい景観を保全するとともに、木曾川河川空間という価値を再定義します。その上で木曾川河畔の豊富な資源を活かし、何度も訪れたいくなる、楽しい空間づくりを進めます。

城下町至近から発着する遊覧船を年間通じて楽しむことができるよう、定期便の安定的な就航に加えて、魅力的な企画船メニューを拡充していきます。市や船会社が所有する屋形船の改修などを図り、高単価・高付加価値のコンテンツを造成し、木曾川河川空間全体の魅力を高めます。

栗栖園地の整備を進めるとともに、河川敷地占用許可準則に基づく区域指定の適用により収益向上も見据えた利活用を促進します。多様な実施主体者と連携し、栗栖地区などのアウトドアアクティビティを充実させます。

長期的な目標として栗栖地区から内田地区、そして木津地区に至るまでの歩行者空間の充実を目指します。

該当箇所：33～38、48～50、52～56 ページ

掲載 URL：https://www.city.inuyama.aichi.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/008/650/honsatu.pdf

犬山市木曾川河畔空間整備 基本構想((素案 プラン①~③) (2023(令和5)年8月策定)

犬山市観光戦略で定めた重点プロジェクト「遊園ルネサンス」を展開するためにチャレンジする施策「憩いの場、滞在の場としての内田地区木曾川河畔整備（社会実験から実装へ）」を推進するにあたり、内田地区の河畔空間を高質化するとともに、古くて新しい観光スポットとして、そして市民にとっても憩いの場となることを目指し、地域住民や観光事業者などと調和を図りながら魅力ある河畔空間の整備を目指します。

基本構想の策定にあたっては内田町住民や周辺民間事業者（犬山朝市出店者・宿泊事業者）の参画による対話の場「河畔 de カタリーヴァ」や実証実験を通じて、具体的な取組みを検討しました(全6回開催)。

●地域住民との対話の場(河畔 de カタリーヴァ)の開催

<p>1 木曾川河畔空間って？</p> <p>令和4年8月31日(水)</p> <p>参加者同士が木曾川河畔空間への想いを発表しあい、今後の検討に向けた第一歩となりました。</p> <p>(内容)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに(前提条件の共有) 2. アイスブレイク 3. パストーク 4. グループ発表&全体共有 5. ふりかえり&まとめ 	<p>2 つかい方の物語 @河畔空間</p> <p>令和4年9月28日(水)</p> <p>参加者が、木曾川河畔での過ごし方について想いを共有することで、参加者が木曾川河畔に求めるものを把握すること。</p> <p>(内容)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回のふりかえり 2. アイスブレイク 3. グループワーク 4. グループ発表&全体共有 5. ふりかえり&まとめ 	<p>3 デザインしよう！河畔空間</p> <p>令和4年11月2日(水)</p> <p>参加者が、思い描く河畔空間のイメージをデザインすることで、今後の整備に向けたコンセプト等を把握すること。</p> <p>(内容)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回のふりかえり 2. 事例紹介 3. 自己紹介 4. デザインゲーム 5. グループ発表&全体共有 5. ふりかえり 
<p>4 河畔deおためし大作戦！</p> <p>令和4年11月30日(水)</p> <p>参加者が実際におためし事業を企画することで、河畔に対する愛着の醸成と今後の継続的な河畔空間の活用につなげる。</p> <p>(内容)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回のふりかえり 2. 事例紹介 3. 個人ワーク 4. Projectチーム結成 5. グループワーク 6. グループ発表&全体共有 7. 今後に向けて 	<p>5 おためしPROJECT発表会</p> <p>令和5年1月25日(水)</p> <p>おためししたことをグループごとに発表し、意見交換することで、継続的な活動に向けて必要なこと等を整理すること。</p> <p>(内容)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回のふりかえり 2. おためしPROJECT発表会 3. グループワーク 4. 全体トーク 	<p>6 確認しよう！基本構想(案)</p> <p>令和5年3月15日(水)</p> <p>これまで検討してきたことを踏まえ、今後の河畔空間のあり方を示す基本構想の案をみんなで確認し、共有すること。</p> <p>(内容)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回のふりかえり 2. 基本構想(案)の紹介 3. えんたくん会議 4. グループ発表&全体共有 5. ふりかえり&今後に向けて 6. チェックアウト 

該当箇所：1、10 ページ

掲載 URL：https://www.city.inuyama.aichi.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/010/026/kihonkousou.pdf

木曽川河畔の 取り組み

河畔 de カタリーヴァ

～水曽川河畔空間整備に向けた対話の場～

犬山市では、令和4年3月に「犬山市観光戦略」をつくりました。重点プロジェクトに木曽川河畔（内田地区）の活性化を定めています。令和4年度には、河畔に住む方、訪れる方にとって「憩いの場と活躍の場」とするため、住民のみなさんや関わりのある人でざっくばらんに話し合う「河畔 de カタリーヴァ」を開催しました。

令和5年度は、「河畔 de カタリーヴァ」の皆さんにいただいたご意見を反映した『犬山市木曽川河畔空間整備基本構想』をとりまとめ、公表しました。



基本構想をつくりました！

カタリーヴァに参加されたみなさんと木曽川河畔の“夢”を描きました。

～今後の整備に向けて～

1. 水の流れと人の流れ

～安全安心に人やモノが移動できる空間づくり～

2. KISOGAWA TERRACE

～憩い、くつろぎながら滞在できる空間づくり～

3. 緑と光の共存

～良好な景観資源や歴史を活かした空間づくり～

4. 川辺で遊ぼう！

～多様なアクティビティが生まれる楽しい空間づくり～



基本構想を実現するため、今後は「河畔空間」と「まち空間」が融合した良好な空間形成を目指し、国が定める『かわまちづくり計画』の策定を進めていきます。



事例：盛岡地区のかわまちづくり

河畔空間の整備構想（モデルプラン①～③）

※遊歩道と車道の高さ関係に着目した整備イメージ



～高低差を活かした空間づくり～



～高低差を解消した空間づくり～



～高低差を解消し、変化のある空間づくり～

詳細は以下のQRコードを読み取ってご確認ください



実はこんな取り組みも！

宵のカタリーヴァ

令和5年8月4日（金）・5日（土）

「河畔 de カタリーヴァ」の参加者と継続的に木曽川河畔での様々な取り組みを実践していくため、ロングラン花火期間中の実証実験として開催している「宵のいぬやMARCHE」へ体験ブースとして出店しました。



かざぐるまクラフトコーナー
（2日間で502名参加）



わなげ・ボーリング等体験コーナー
（2日間で340名）

柿狩り&犬山朝市へ出店！

令和5年11月4日（土）・5日（日）

「宵のカタリーヴァ」に引き続き、「河畔 de カタリーヴァ」の参加者と継続的に木曽川河畔での様々な取り組みを実践していくため、River to Summit2023で犬山朝市が出店することに合わせて「柿狩り&犬山朝市へ出店！」として実施しました。



犬山朝市へ出店
（11月5日）



犬山朝市へ出店
（11月5日）

掲載 URL : <https://www.city.inuyama.aichi.jp/shisei/keikaku/1005929/1010026.html>

③ 地域活性化や賑わいあるまちづくりに対する市町村や民間事業者の考え方

<犬山市かわまちづくりに対する考え方(基本コンセプト)>

犬山市観光戦略においては、水の恵みこそが地域や歴史、人の営みを繋ぎ、全体を結ぶ基本的資源であり、その上に城、緑があるという考えが原点となっています。「かわ」と「まち」をつなぐことで、賑わいと憩いそして活躍の場づくりを目指す「犬山市かわまちづくり計画」においても基本的には犬山市観光戦略の考え方を踏まえながら、下記のとおり設定します。

犬山市観光戦略のコンセプト

犬山三景 水景・城景・緑景

日本ライン観光の再発見・水がはじまるところ・水が育む城下町と緑の自然

犬山市かわまちづくり計画の基本コンセプト

犬山三景「水景・城景・緑景」

～ 日本一美しい河畔へ ～

【基本コンセプトの考え方】

- 犬山三景「水景・城景・緑景」は、犬山らしさを突き詰めたときのフレーズであり犬山の観光に必要な「景観」と「資源」のみならずとなるものです。
- 水があることで舟運が栄え、城ができ、産業が集積する城下町が形成されたこと、そして祭や鵜飼等の伝統文化が生まれ川と水の恵みにより実り豊かな里山ができたこと、つまり水（木曾川）の恵みこそが地域や歴史、人の営みを繋ぎ、全体を繋ぐ基本資源である、その上に城（文化）と緑（豊かな自然）があるという考えです。
- 犬山市観光戦略ではこの考えに立ち、基本コンセプトは景観だけでなく観光まちづくりの為に空間整備・資源・サービスの創造提供、人材育成、広報活動などに取組む際に常に立ち返る原点と規定しています。犬山らしさの基本的概念と言い換えることができます。
- 犬山市かわまちづくり計画においてもこの考えを踏襲し、「犬山三景」を基本コンセプトとした上で、木曾川河川空間が「かわ」と「人」と「まち」を繋ぐ特別な場所と捉えることで、川を中心に人が集い、賑わいが生まれ、地域の人々も心豊かに活躍できる日本で一番美しい河畔を形成することを目指して、本計画の基本的概念（コンセプト）と定めます。

④ 地域活性化や賑わいあるまちづくりに資する定量的目標

●目標指標(案)

表 まちづくりに資する定量的目標

指標	現状値	目標値	設定の考え方・測定方法等
木曾川河畔空間の歩行者数	867人 (R4年度)	950人 (R9年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 閑散期の週末平均歩行者数 ・ 木曾川河畔空間の活性化に向けた実証事業の継続や魅力向上をPRし、閑散期の歩行者数を増加させる。 ※都市再生整備計画目標指標
ソフト事業の実施回数	0回 (〇年)	〇回 (〇年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ かわまちづくり対象範囲内における年間のソフト事業の実施回数
住みやすさの満足度	71% (R5年度)	75% (R10年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 持続可能な都市構造の形成により、「住みにくい」の評価を「住みやすい」に変化するのかを評価する。 ※都市再生整備計画目標指標
観光客満足度	70.1% (R元年度)	80.1% (R13年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 城下町及び木曾川河畔の回遊性や観光拠点の整備が進むことにより、観光客の満足度向上を図る。 ※観光戦略目標指標

① 協議会、運営組織等の体制（案）

かわまちづくり計画の作成にあたり、学識経験者や関係機関、各種団体の代表者等が参画する「犬山かわまちづくり推進協議会（以下、推進協議会）」において、地域の活性化に資するソフト施策やハード施策、推進体制等を協議します。

また、計画策定後は計画に位置づけた取組についての検証や見直し、河川敷地の利活用にあたっての地域の合意形成を図る場として検討を進めます。

犬山かわまちづくり推進協議会

◇活動目的・内容

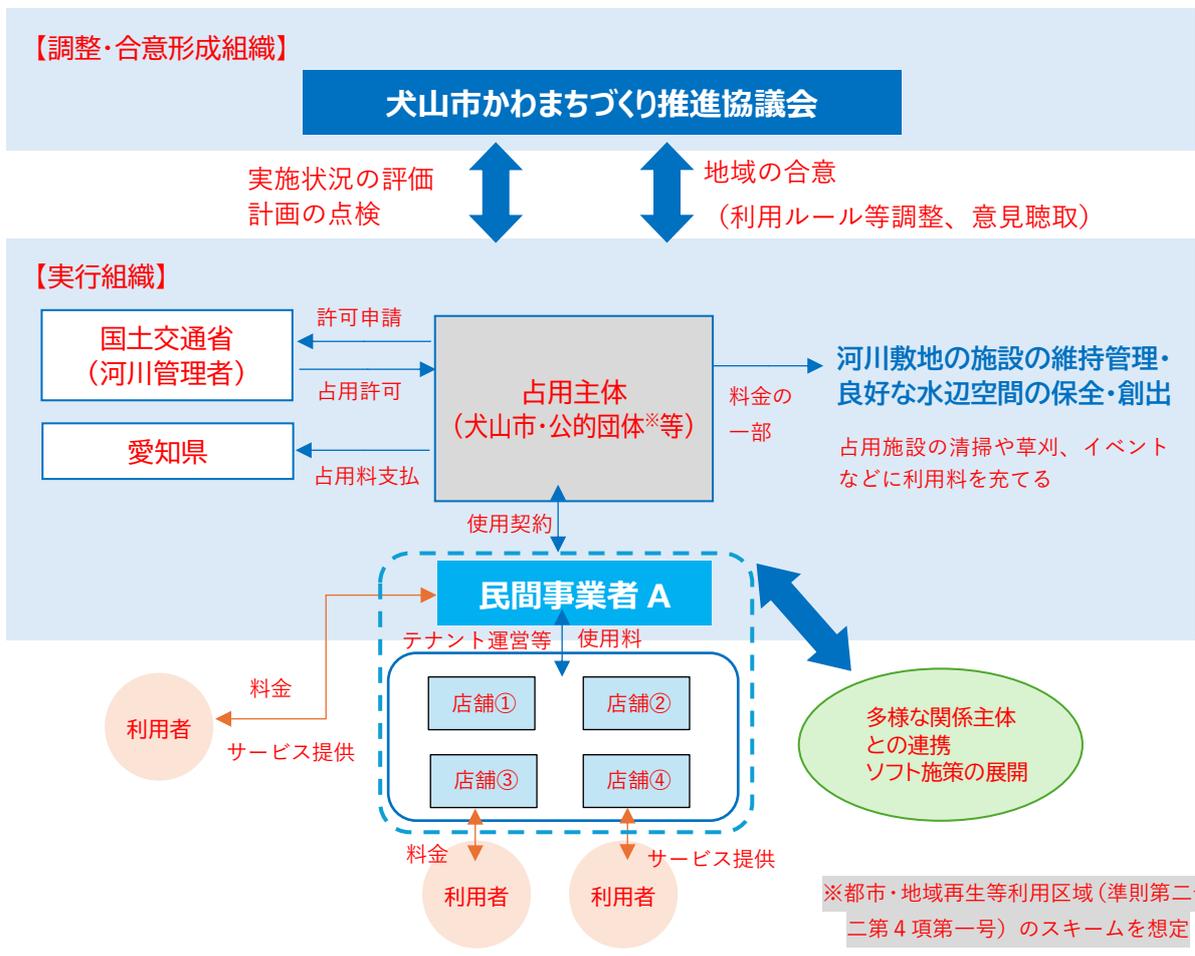
- ・ 犬山かわまちづくり計画の作成、計画の変更、計画に基づく取組の進捗・検証等について協議する。
- ・ 河川敷地の利用調整について協議する。

◇構成メンバー

- ・ 学識経験者、河川関係者、商業・観光関係者、地域関係者、河川及び道路に関係する行政機関

② 地域活性化や賑わいあるまちづくりに資する多様な関係者との連携・取組内容（案）

かわまちづくり計画推進に係る多様な関係主体の活動や施策の実施状況について、推進協議会で審議し合意を図ると共に、事業実施の評価を行います。



5. 安全な河川利用に向けた取組

河川利用者の安全確保に向けて、次の取り組みを実施することで安全面での指導及び安全確保を行う体制を確保しています。

① 木曾川鵜飼・遊覧船の出船時を想定した避難訓練（木曾川観光株式会社）

- 鵜飼・遊覧船を運営する木曾川観光株式会社では出船時を想定した訓練を実施しています。船頭等による乗客の安全な避難誘導をはじめ、運行前の点検やメンテナンスの徹底、気象条件の慎重な判断、救命胴衣の配置箇所等について乗客に対する乗船指導を行うなど、遊覧船の安全対策を行っています。



② 増水時における鵜飼仮小屋の撤去訓点（犬山市・木曾川観光株式会社）

- 犬山市・木曾川観光株式会社では所管する鵜飼に関連する工作物の撤去訓練を行っています。増水時を想定してクレーンで工作物を移動する等、すみやかに工作物を撤去できるよう訓練を行っています。



③ 水難事故発生時を想定した消防士による救助訓練（犬山市）

- 消防署では水難事故が多発する夏期シーズン前に水難救助訓練を行っています。消防隊はゴムボートを使用して溺れている人を救出するなど、実災害を想定した訓練を実施しています。また、使用する資機材の点検・確認や、訓練に参加する隊員全員が訓練内容を事前に把握する等、安全に留意し訓練を実施しています。
- 消防本部においては水難救助に係るマニュアルを整備し、訓練後には訓練を踏まえたマニュアルの見直しなど、安全管理の徹底を図っています。



6. 都市・地域再生等利用区域の指定に関する取組

○内田地区、栗栖地区ともに河川占用敷地許可準則 22 条に基づく都市・地域再生等利用区域の指定及び管理団体の認定を目指し、検討と取組みを進めます。

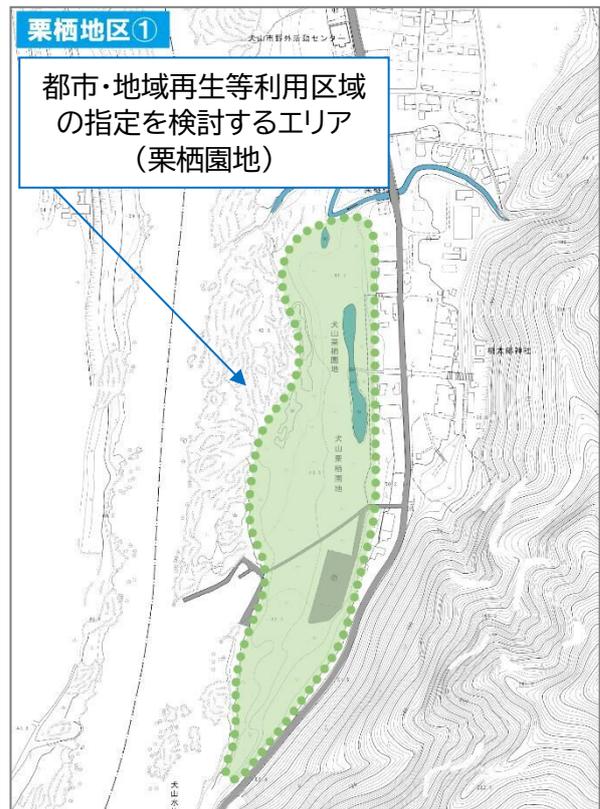
【内田地区】

- ・ 木曽川河畔遊歩道の再整備に伴い、民間事業者運営によるカフェ等商業施設の設置を想定しています。
- ・ このため、河川占用敷地許可準則 22 条に基づく都市・地域再生等利用区域の指定に向け検討を行います（検討の為の実施スキームは今後定めます）。
- ・ また、実証実験を通じて、エリアマネジメントを意識した運営・活用手法を検討していきます。



【栗栖地区】

- ・ 現在、犬山市が占用許可を受けている栗栖園地では桃太郎公園内の商店からなる桃太郎発展会が市から委託されて日常管理やキャンプ利用等の受付業務を担っています。
- ・ 今後、右の範囲を対象に都市・地域再生等利用区域の指定と管理団体の認定に向けて検討を進めます。
- ・ 検討の為の実施スキームは今後定めますが、管理団体による運営後は、得られる利用料等の収益を園地の維持管理や地域への還元等に充てる等の好循環が図られるよう、仕組みを構築していきます。



検討中

1. 河川名
① 木曽川水系木曽川
2. 提案事業の実施範囲
① 木曽川 内田地区 ② 木曽川 栗栖地区
3. 提案事業の概要

① 木曽川 内田地区

(1) かわとまちの賑わいを創出する

令和6（2024）年で45回を数える日本ライン夏まつり（ロングラン花火）や、30年以上続く犬山朝市は、かわとまちの賑わいづくりにおいて欠かせない本市ならではの取組みです。今後も時代や河畔の状況に合わせ工夫し充実していきます。加えて、今後新たなソフト事業の研究・実施も図ります。実施にあたっては、住民・事業者・来訪者にとって木曽川河畔が憩いや活躍の場となることを目指し、再整備に向けた検討や実証実験を行いながら、実現に向け取組みを進めていきます。実証実験の取組みについては周辺の飲食物販・宿泊事業者や河畔 de カタリーヴァの取組を進めます。

整備エリア	項目・内容
内田地区 木曽川河畔 空間エリア	日本ライン夏まつりロングラン花火の継続実施
	夏の風物詩である日本ライン夏まつり（ロングラン花火）は時代や状況に合わせて実施内容や運営体制を工夫し、継続実施していきます。
	犬山朝市の継続開催と充実
	30年以上の歴史がある犬山朝市が、今後も継続し発展・充実出来るよう、関係者と連携・調整を進めるなど、更なる体制強化と魅力向上に努めます。
	新たなソフト事業の展開
	<p>●新たな事業の検討</p> <p>水上ステージや階段護岸及び遊歩道空間等を活かし、犬山らしさを感じる新たなイベント等を検討し実施します。</p> <p>犬山朝市の定期開催に加え、季節にあわせたマルシェやキッチンカーの飲食物販、ライトアップ等、空間を活かした新たな賑わいづくりを目指します。</p> <p>岐阜県各務原市と連携し、両岸での魅力と賑わいづくりに繋がる催事を検討・実施します。</p> <p>新たな催事は地域住民、宿泊施設を始めとした事業者、観光関係者など様々な主体との連携・協働により進めます。また早朝やナイトタイムエコノミーにおけるの魅力づくりを意識し、宿泊が増加し消費が高まるよう取組を進めます。</p>

●常設店舗設置に向けた可能性検討と実施

河畔整備により常設での店舗設置を目指します。そのために河畔 de カタリーヴァを開催することによる地域住民との意見交換や事業者、公共的団体、河川管理者等との協議を継続して実施するとともに、実証実験を通じて魅力ある河畔形成に必要な機能の検証を行います。

飲食物販機能等の設置については、河川敷占用許可準則の特例措置により民間事業者や地域住民、地域団体等の活力の導入を図ることでエリアマネジメントの実現を目指します。これにより商業的な賑わいも実現した地域活性化を図ります。

●住民・来訪者の交流・憩いの場づくり

河畔はスローな文化を感じることができる、ゆったりとした空間づくりを目指します。そのために、ソフト面では地域住民の皆さんが滞在し活動し交流出来るしかけや仕組みが必要と考えます。そのために、実現のためのスキーム等を検討・実現します。

また、河畔の更なる魅力づくりには、地域資源を活用し、地域住民や来訪者の交流・滞在増進の仕掛けも必要です。様々なアクティビティや体験等を企画・実施していきます。

(2)かわとまちの歴史文化を守り、継承する

木曾川鵜飼は、1300年の歴史を有する伝統漁法であり、現在も技術と伝統を継承する取り組みを続けています。本市を代表する観光資源でもあり、令和6（2024）年は1万7千人以上の観覧がありました。また、日本ラインと呼ばれる木曾川の美しい景観を遊覧船で巡り楽しむことが出来ます。

木曾川の舟運の歴史は古く、尾張藩にとって木曾・美濃と名古屋城下を結ぶ物資・木材の輸送路に位置し、物資の集散地としての拠点機能を有していました。

引き続き、鵜飼・遊覧船の歴史文化を保存継承するとともに、その価値を高める魅力づくりを行っていきます。

整備エリア	項目・内容
内田地区 鵜飼・遊覧 エリア	木曾川鵜飼の保存・継承
	<p>市営鵜飼として継続することで、1300年続く伝統漁法を保存し次の世代に継承します。</p> <p>木曾川鵜飼の魅力を高めるため、見せ方を工夫するなど必要な取り組みを進めます。また鵜飼・舟運等の川文化の魅力を高めるため、遊覧船や水上ステージを活用し鵜飼の実演や説明などを充実させます。</p>
	遊覧船メニューの拡充
	<p>四季折々の風景を楽しむ企画船や春秋の遊覧船など、木曾川観光株式会社と連携を図りながら、舟遊びとしての遊覧船メニューの拡充を図ります。</p>

(3) 良好な自然環境を育み、親しむ

昭和 43(1968)年に頭首工が整備されて以来、犬山城が水面に映える新たな景勝地が生まれた反面、それまでの河川敷特有の川原植物や砂礫が失われたことで鳥類や魚類の生息・生育・繁殖場所が減少する等、生物に大きな影響を及ぼしています。

このため、国・愛北漁業協同組合をはじめ、市民協働により、良好な河川環境を保全する取組を実施していきます。

整備エリア	項目・内容
内田地区 木曾川河畔 空間エリア	河川環境の保全、環境学習の実施
	<p>木曾川の環境変化を国と共にモニタリングを継続して行い、河底低下による環境変化に対しては玉石を投入することにより維持を図ります。</p> <p>また、漁獲量の確保及び環境学習を目的に、愛北漁業協同組合や市民協働により、鮎などの放流事業や水上ステージを活用した自然観察会や桃太郎神社周辺での鮎のつかみ取り体験など等、環境学習・体験活動を推進します。</p>

第1回意見 NO.1 追記

(4) かわとまちをつなぐ～回遊性向上と広域連携～

滞在時間を延ばすとともに宿泊者数を増加させ、消費を高めるためには、観光地全体での魅力向上が必須です。このため、犬山駅（国宝犬山城～犬山城下町～木曾川河畔など）から犬山遊園駅～栗栖地区までの回遊性を高める仕組みづくりを進めます。具体的には適切なサインの設置やわかりやすいマップ等の作成、河畔へ誘導する体験型観光コンテンツ造成やイベント開催などにより、歩いて楽しい仕掛けづくりに努めます。

また、岐阜県各務原市との連携、木曾川中流域観光振興協議会での取組みや、木曾川中流域がサイクリングコースでつながる仕掛け（木曾川中流域自転車で繋ぐかわまちづくりなど）、木曾川を活用した連携が動き始めています。回遊性向上だけでなくエリア全体での魅力向上が、かわとまちを繋ぐことに資する取組みとして、今後も強化していきます。

整備エリア	項目・内容
内田地区 (市域全体)	回遊性向上を図る取組み（サイン・マップ等の作成）
	<p>犬山駅から犬山遊園駅～栗栖地区までの回遊性を高めるため、ウォーキングコースやサイクリングコースの設定を行い、適切でわかりやすいサインの整備、各種観光マップ、パンフレット等で風光明媚な木曾川河畔の魅力を紹介していきます。</p> <p>また国宝犬山城から木曾川河畔へ誘導するサインを適切に設置し、回遊性の向上を図ります。</p>
	木曾川河畔を巡るツアーや歩きたくなる視点場等の充実
	<p>木曾川河畔には国宝犬山城を始め、国宝茶室如庵を有する有楽苑、内田の渡しなど歴史・自然資源が豊富です。これらを巡るストーリーツアーを始めとした観光コンテンツの造成や視点場の設定等を通じて木曾川河川空間の価値を再定義していきます。</p>

様々な枠組みでの連携によるエリア全体での魅力向上

岐阜県各務原市とは木曾川鵜飼、日本ライン夏まつりロングラン花火、犬山・各務原広域観光推進協議会など、様々な形で連携が行われています。河川空間は犬山と各務原の両岸の魅力が高まることで、更なる磨き上げが進むものと考えます。今後も遊覧船や文化による繋がりを築きながら美しい空間形成を図ります。

木曾川中流域観光振興協議会での連携もかわとまちの繋がりを強くする取組みと捉えています。4市1町で方向性を同じくする中で、木曾川中流域ならではの魅力づくりに努めます。

木曾川中流域の12市町による「木曾川中流域自転車で繋ぐかわまちづくり」は、サイクリングをテーマに市町が繋がり、エリア全体での広域な魅力づくりを進めるものであり、本市も積極的に参画します。取り分け、本計画により整備を目指す内田地区や栗栖園地を12市町の中でも拠点として位置づけ、流域全体の活性化に貢献していきます。

② 木曽川 栗栖地区

(1) かわとまちの賑わいを創出する

栗栖園地及び桃太郎公園周辺は桃太郎伝説を伝える桃太郎神社や日本ラインの自然景観を活かした芝生広場、桜や紅葉をはじめとする四季折々の景観が楽しめる公園となっています。この木曽川河畔と栗栖園地、桃太郎神社、野縁公苑を一帯として、美しい景観や地域資源を保全・活用すると共に、キャンプ場やラフティング等のアウトドアアクティビティのエリアとして活用していきます。

なお、実現に向けては桃太郎公園内の商店街からなる栗栖桃太郎発展会やミラマチ栗栖、周辺のアウトドア事業者等との連携を図っていきます。

整備エリア	項目・内容
栗栖園地 エリア (栗栖園地 周辺)	栗栖園地におけるアウトドアアクティビティの提供
	<p>キャンプや水遊び等のアウトドア拠点として栗栖園地を活用し、アウトドアアクティビティの提供を行っていきます。</p> <p>なお、栗栖園地は、河川敷占用許可準則の特例措置により民間事業者や地域住民、地域団体等の活力の導入を図ることでエリアマネジメントの実現を目指します。これにより持続可能なスキーム構築を実現するとともに商業的な賑わいも実現した地域活性化を図ります。</p>
栗栖園地 周辺エリア (船着場周辺)	遊覧船による舟運やラフティングによる川遊びの提供
	船着場の老朽化対策を行い、犬山城港・犬山橋港間の遊覧船による舟運や、ラフティング等の川遊びを実施していきます。
栗栖園地 周辺エリア (桃太郎神 社周辺)	桃太郎神社や商業施設の充実による賑わいの創出
	<p>神社前の商業施設の充実を図るとともに、桃太郎神社の祭礼（桃太郎まつり）や鮎まつり（特設プールでの鮎のつかみ取りや特産品の販売）、桜まつり・紅葉まつりなど四季折々のイベントを開催します。</p>
	野縁公苑を活用した賑わいの創出
	<p>令和元年 11 月、桃太郎公園南にある「野猿公苑跡地」を整備し、新たに「野縁公苑」という愛称が付されました。地域に愛され、地域活性化イベント等の場としての利活用を図ります。</p>

(2) 良好な自然環境を育み、親しむ

栗栖竹林エリアはかつて竹林が無秩序に繁茂しており、景観を阻害するとともに、十分な利活用がなされていませんでした。昔の河畔景観を取り戻したいという思いをもとに地域団体「ミラマチ栗栖」が平成 28(2016)年度から河川区域に繁茂した竹を間引き、草木を除去することにより、木曽川を望みながら歩ける竹林遊歩道の整備を進め、憩いの親水空間づくりに取り組んでいます。

今後も美しい竹林の遊歩道を維持すると共に、当該エリアを活用した子どもキャンプなどの自然体験活動を実施していきます。

整備エリア	項目・内容
栗栖竹林 エリア	竹林の道の維持管理 地域団体である「ミラマチ栗栖」が、木曽川を身近に感じゆっくりと歩くことが出来る竹林の道の整備を行っています。今後も美しい景観を楽しむとともに、地域活性化の為に活動が継続できるよう、運営体制等の工夫と検討を進めます。
	自然体験活動の実施 栗栖竹林エリアや 野外活動センターエリア をはじめ、栗栖地区全体を活用した子どもキャンプやきのこづくりイベント、古生層のチャートや二つ岩、川の生き物観察会など、木曽川や栗栖地区の豊かな自然環境を活かした体験活動を実施します。
栗栖園地 エリア	水と魚に親しむイベントの開催 桃太郎神社周辺において、鮎のつかみ取り体験や鮎の塩焼きの販売などにより、市民が集い河川環境に興味を持ってもらえるようなイベントを開催します。また、「水と魚」に親しむ木曽川の魅力について情報発信を行います。
	第1回意見 NO.1・4 追記

(3)かわとまちをつなぐ～回遊性向上と広域連携～

栗栖園地や桃太郎神社など、栗栖地区には他には見られない独自性のある施設や空間が魅力です。栗栖地区と犬山城下町、内田地区を繋ぐ仕掛けとして、適切なサインの整備やマップ・リーフレット等による紹介などを通じて、周遊への動機づけを進めます。また遊覧船により犬山城下町を訪れる観光客と栗栖園地を結び、回遊性と魅力を高めます。

12市町によるかわまちづくり計画においても、栗栖園地を拠点として検討していただき、エリア全体の魅力づくりに貢献出来るよう努めます。

整備エリア	項目・内容
栗栖地区 (市域全体との連携)	回遊性向上を図る取組み（サイン・マップ等の作成） 栗栖地区と犬山城下町、内田地区を繋ぐ仕掛けとして、 ウォーキングコースやサイクリングコースの設定を行い 、適切でわかりやすいサインの整備、観光マップ、リーフレット等を作成し、風光明媚な木曽川河畔へ誘導していきます。
	様々な枠組みでの連携によるエリア全体での魅力向上
	岐阜県各務原市とは木曽川鶺鴒、日本ライン夏まつりロングラン花火、犬山・各務原広域観光推進協議会など、様々な形での連携が行われています。河川空間は犬山と各務原の両岸の魅力が高まることで、更なる磨き上げが進むものと考えます。今後も遊覧船や文化による繋がりを築きながら美しい空間形成を図ります。 木曽川中流域観光振興協議会での連携もかわとまちの繋がりを強くする取組みと捉えています。4市1町で方向性を同じくする中で、木曽川中流域ならではの魅力づくりに努めます。 木曽川中流域自転車で繋ぐかわまちづくりは、サイクリングをテーマに市町が繋がり、エリア全体での広域な魅力づくりを進めるものであり、本市も積極的に参画します。取り分け、本計画により整備を目指す内田地区や栗栖園地を拠点として位置づけることで、流域全体の活性化に貢献していきます。

ハード施策の個別整備計画書

1. 河川名

① 木曾川水系木曾川

2. 整備範囲

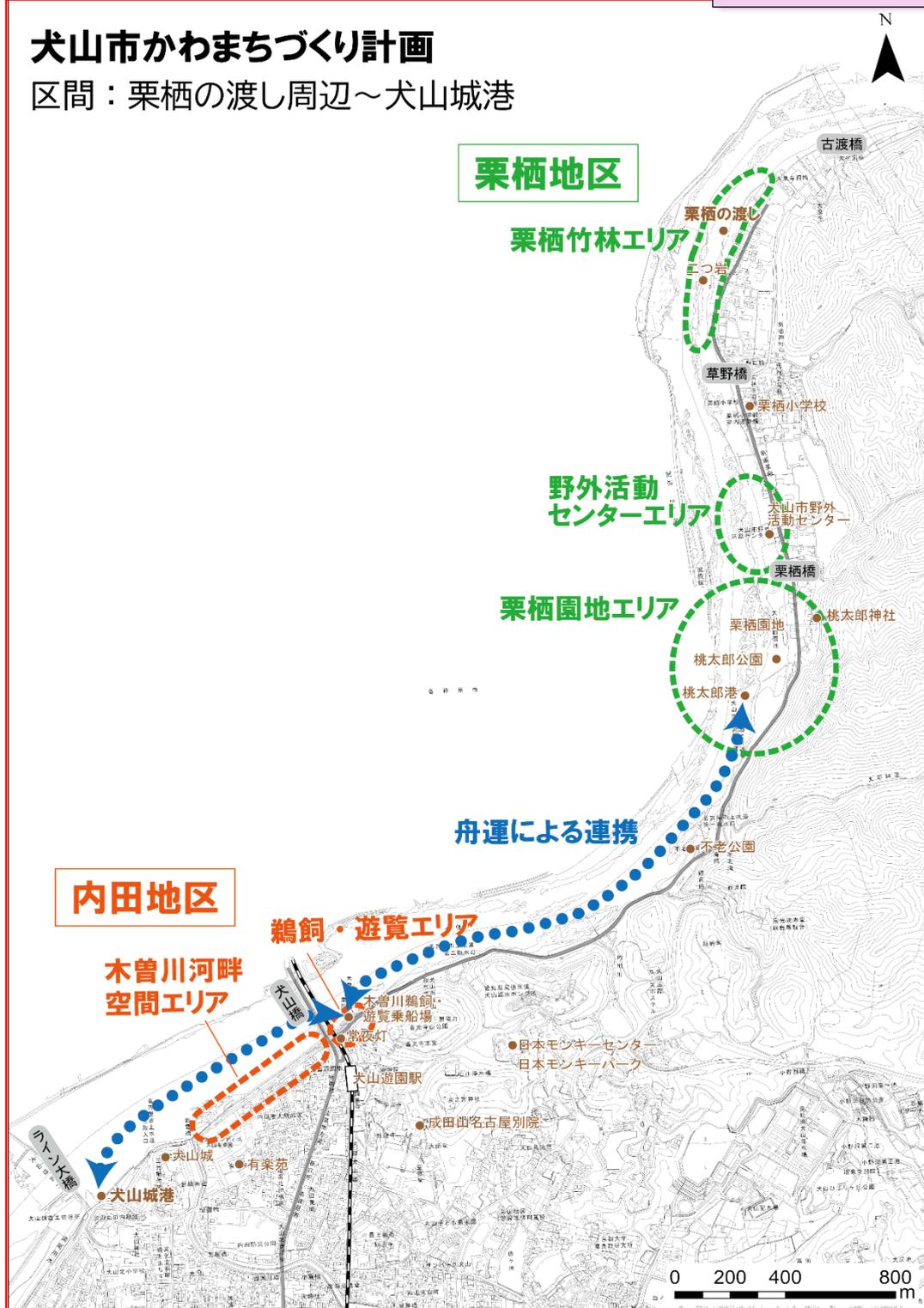
【全体位置図】

栗栖の渡し周辺～犬山城港

第1回意見NO.1により
エリアの見直し

犬山市かわまちづくり計画

区間：栗栖の渡し周辺～犬山城港



3. 整備内容

第1回意見 NO.5 追記

① 木曾川 内田地区:木曾川河畔空間整備

●整備概要

木曾川河畔の歩行空間整備により快適性等を向上し、犬山城・犬山城下町との回遊性を高め、新たな観光拠点を形成し、滞在時間を伸ばし消費を高めます。

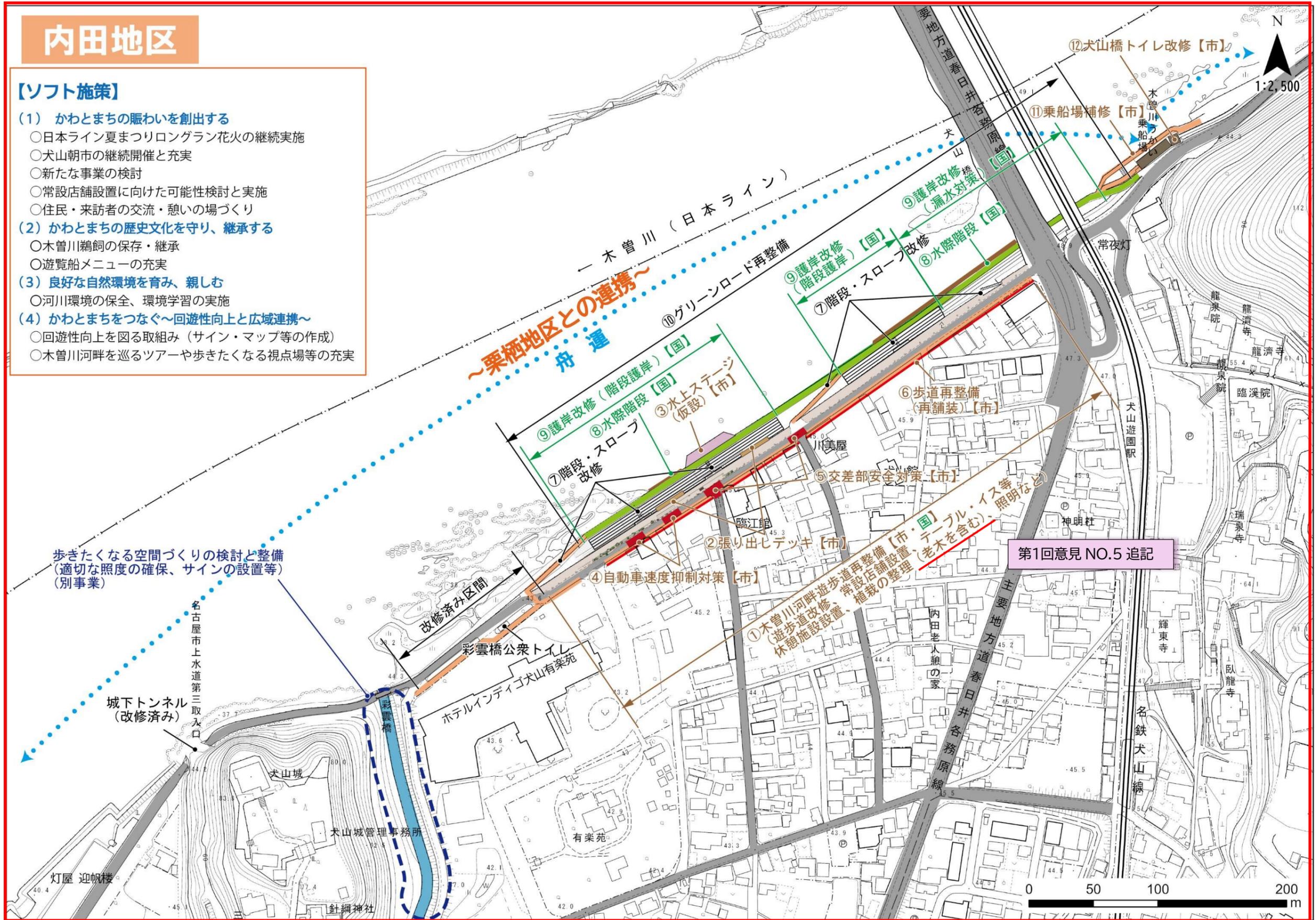
エリア	実施主体	整備項目	整備内容
木曾川 河畔空間 エリア	犬山市	木曾川河畔遊歩道再整備 (図 P33①②)	市道犬山 395 号線の車道と遊歩道の高低差を解消するなどして空間を有効に活用出来るよう、遊歩道空間の構成を見直します。舗装の再整備をはじめ、常設店舗設置（テーブル・イス等休憩施設設置）や 植栽の整理（老木を含む） 、照明等をはじめ、張り出しデッキ、照明施設、給電・給排水施設等便益施設の整備を行い、河川への眺望や快適な交流・滞在空間を創出します。盛土に関しては、防災上安心安全の観点からの堤防整備としても河川管理者と協議検討します。
		水上ステージ (仮設) (図 P33③)	各種イベントや鵜飼・舟運等の川文化の魅力を発信するガイダンス施設として、川側に張り出しステージを設けます（仮設を検討）。
		市道犬山 395 号線の改修 (図 P33④-⑥)	車道部分について、自動車速度抑制対策や交差部安全対策を行います。また民地側の歩道幅を確保し明示することにより、周囲の商業施設に立ち寄りやすく、安全で安心して歩ける道とします。
	調整中	階段・スロープ改修 (図 P33⑦)	護岸に付属する現況箇所の階段・スロープについて、老朽化対策を行います。
	国土交通 省（河川 管理者）	水際階段 (図 P33⑧)	グリーンロードと木曾川の隔たりを解消して安全対策を図り、観光資源に親しめる親水空間を形成します。
		護岸改修 (図 P33⑨)	現在、護岸が老朽化し、また堤防から漏水が常時発生している状況です。治水上必要な安全対策の実施に合わせて、利用者の安全性向上を図るため階段護岸とします。
		歩道部の嵩上げ (図 P33①)	木曾川河畔遊歩道再整備の構造部分として盛土で嵩上げすることで車道部と歩道部の高低差を解消し、堤体の強靱化を図ります。
調整中	グリーンロード再整備 (図 P33⑩)	水際部をつなぐグリーンロードを親水性が高く、快適な歩行者・自転車道として再整備を行います（管理用通路の老朽化解消）。	
木曾川 鵜飼・遊 覧エリア	犬山市	乗船場補修 (図 P33⑪)	鵜飼・遊覧船の乗降場の老朽化に伴う補修を行います。
		犬山橋トイレ改修 (図 P33⑫)	現況トイレの老朽化に伴い、改修整備を行います。

●整備平面図【内田地区】

内田地区

【ソフト施策】

- (1) **かわとまちの賑わいを創出する**
 - 日本ライン夏まつりロングラン花火の継続実施
 - 犬山朝市の継続開催と充実
 - 新たな事業の検討
 - 常設店舗設置に向けた可能性検討と実施
 - 住民・来訪者の交流・憩いの場づくり
- (2) **かわとまちの歴史文化を守り、継承する**
 - 木曾川鵜飼の保存・継承
 - 遊覧船メニューの充実
- (3) **良好な自然環境を育み、親しむ**
 - 河川環境の保全、環境学習の実施
- (4) **かわとまちをつなぐ～回遊性向上と広域連携～**
 - 回遊性向上を図る取組み（サイン・マップ等の作成）
 - 木曾川河畔を巡るツアーや歩きたくなる視点場等の充実



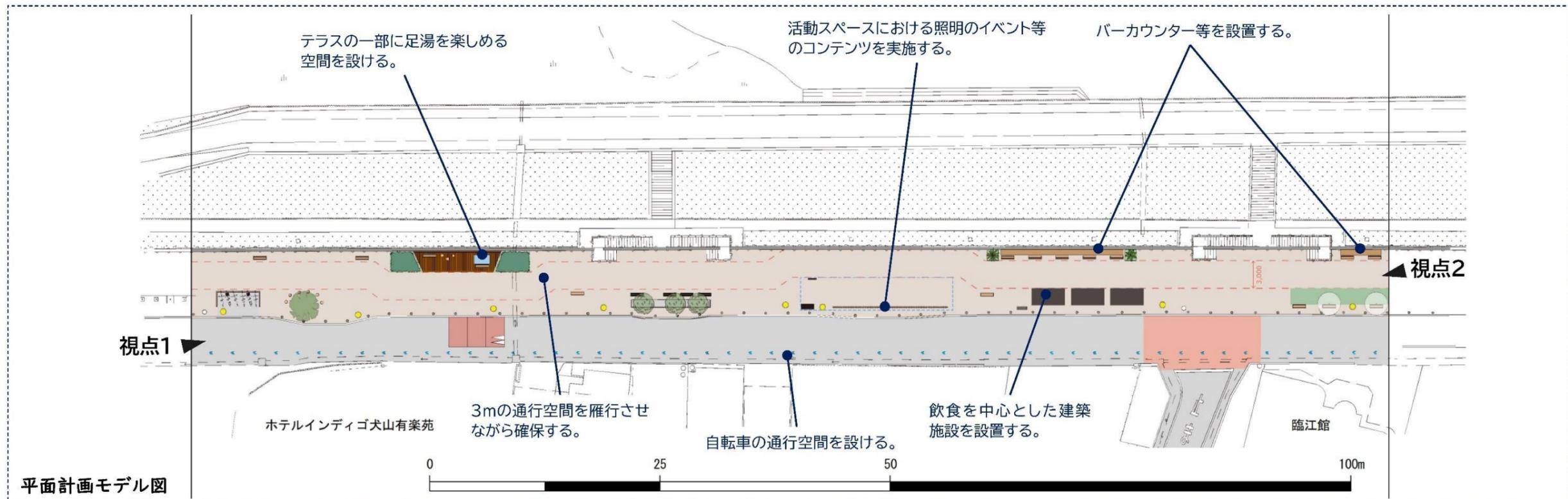
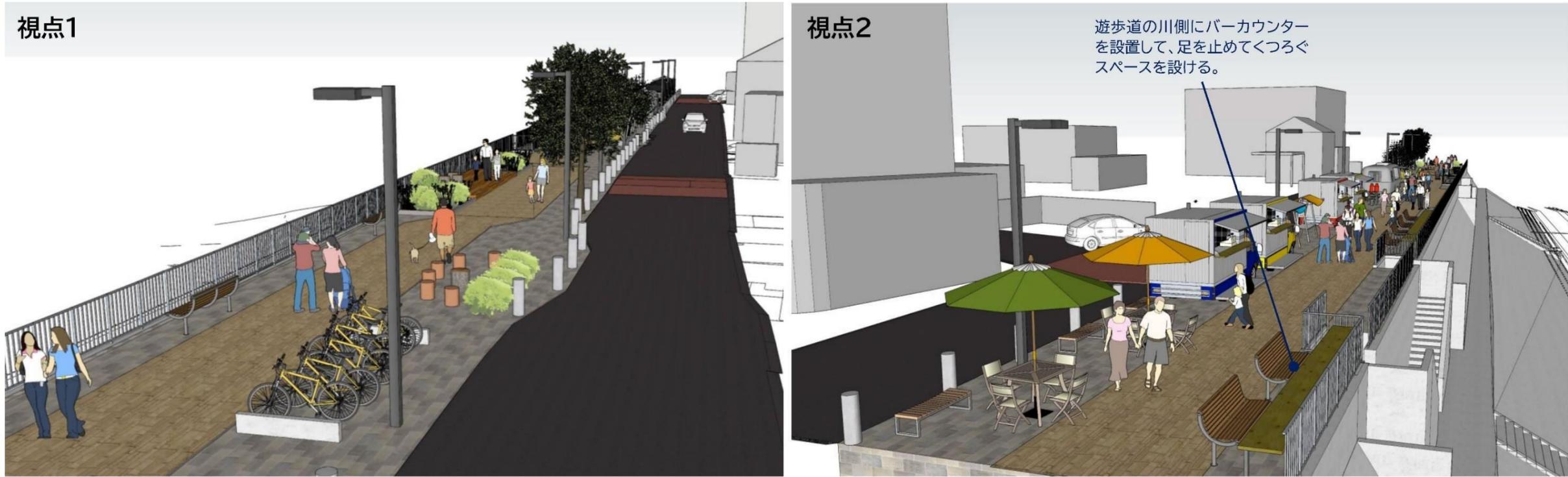
第1回意見 NO.5 追記

※令和7年1月30日時点の案であり、今後、変更する場合があります

第5章 河畔空間の整備構想

※本プランはR4年度の検討を図に示したものであり、決定したものではありません。

【モデルプラン③】 ~高低差を解消し、変化ある空間づくり~



●整備のイメージ



※出典：犬山市観光戦略
 ※資料はイメージを示すもので、今後変更する可能性があります。

■建築施設(出店)



遊歩道内に商業機能をもつ建築施設を設置することで、河畔空間での滞在時間の延長や消費の拡大を期待します。

■テラス



憩いや活動の場等、様々な使い方が可能なテラスを設置することで、河畔を訪れる人々に自由な活動を促します。またテラスからの素晴らしい眺望を楽しんでいただくことも想定されます。

■テーブル・バーカウンター



遊歩道内で飲食等ができるよう、テーブルを設置することを検討します。また、木曾川を眺めることができる位置にカウンターを設置することで、親水性の高い河畔空間となることを期待します。

■ハンプ・狭さく



一部区間では車道幅を狭くしたり、ハンプや狭さく等を設けたりすることで、速度抑制を図るなど自動車と歩行者が安心して通行できる空間が期待できます。

■カラー舗装



区域内の交差点については、歩行者が横断することを考慮し、安全対策に有効なカラー舗装等を施すことを検討します。

■電源



イベント時に必要となる電源を設置することで、日常的な河畔空間の活用を期待します。

※出典：犬山市木曾川河畔空間整備 基本構想 ((素案 プラン①～③)
 ※資料はイメージを示すもので、今後変更する可能性があります。

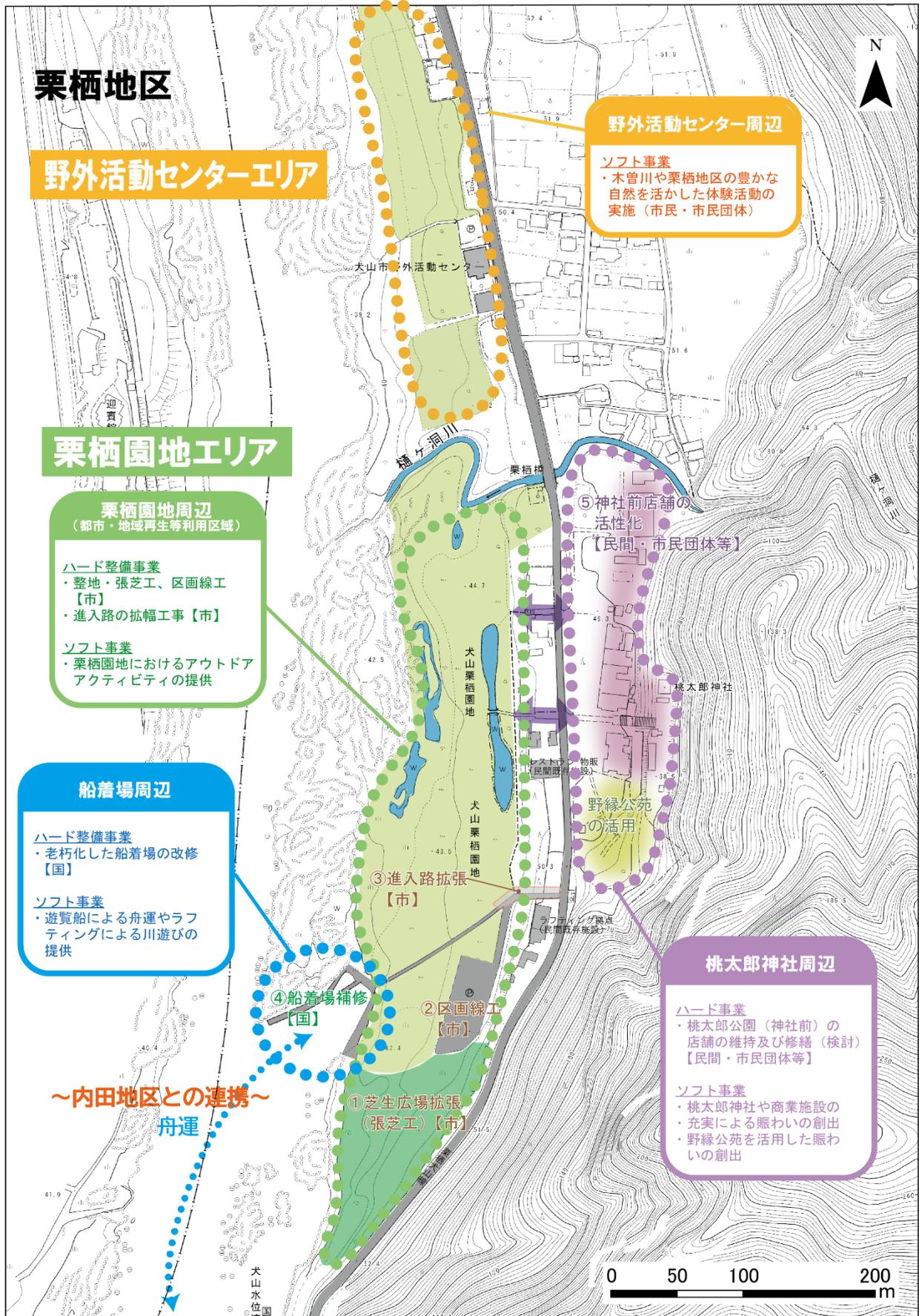
② 木曾川 栗栖地区:栗栖園地周辺整備

●整備概要

木曾川河畔と栗栖園地、桃太郎神社、野縁公苑を一带として、美しい景観や地域資源を保全・活用すると共に、キャンプ場やラフティング等のアウトドアアクティビティのエリアとして整備します。

整備エリア	実施主体	整備項目	整備内容
栗栖園地 エリア	犬山市	整地・張芝工 区画線工 (図 P37①②)	園地内の利用を促進するため、整地し芝生の植栽を行います。芝生拡張部分は植生の状況を見ながら繁忙期に臨時駐車スペースとして柔軟に活用します。既設駐車場の区画線工を行い、利便性を向上します。
		進入路の拡幅 工事 (図 P37③)	栗栖園地への進入路を拡幅し、安全性及び利便性を高めます。
船着場 エリア	調整中	船着場補修 (図 P37④)	既設船着場の老朽化に伴う補修を行います。
桃太郎神社 エリア	民間・市民 団体等	神社前店舗活 性化(検討) (図 P37⑤)	神社前の店舗は経年により建物が老朽化していません。桃太郎神社エリアの魅力維持向上のため、賑わい創出としての店舗の充実は必須と考えますが、一方で改修等は事業費、工法など様々な課題があります。賑わいが維持継続出来る方法を関係者も含め検討し進めます。
栗栖竹林 エリア	ミラマチ 栗栖	竹林整備 (図 P38⑥)	竹の間引きや草本の除去による竹林遊歩道の整備を継続します。

●整備平面図【栗栖地区 栗栖園地エリア～野外活動センターエリア】



栗栖地区

野外活動センターエリア

野外活動センター周辺

ソフト事業
 ・木曾川や栗栖地区の豊かな自然を活かした体験活動の実施（市民・市民団体）

栗栖園地エリア

栗栖園地周辺
 （都市・地域再生等利用区域）

ハード整備事業
 ・整地・張芝工、区画線工【市】
 ・進入路の拡幅工事【市】

ソフト事業
 ・栗栖園地におけるアウトドアアクティビティの提供

船着場周辺

ハード整備事業
 ・老朽化した船着場の改修【国】

ソフト事業
 ・遊覧船による舟運やラフティングによる川遊びの提供

桃太郎神社周辺

ハード事業
 ・桃太郎公園（神社前）の店舗の維持及び修繕（検討）【民間・市民団体等】

ソフト事業
 ・桃太郎神社や商業施設の充実による賑わいの創出
 ・野縁公苑を活用した賑わいの創出

～内田地区との連携～
 舟運

※資料はイメージを示すもので、今後変更する可能性があります。

●整備平面図【栗栖地区 栗栖竹林エリア】

栗栖地区

栗栖竹林エリア

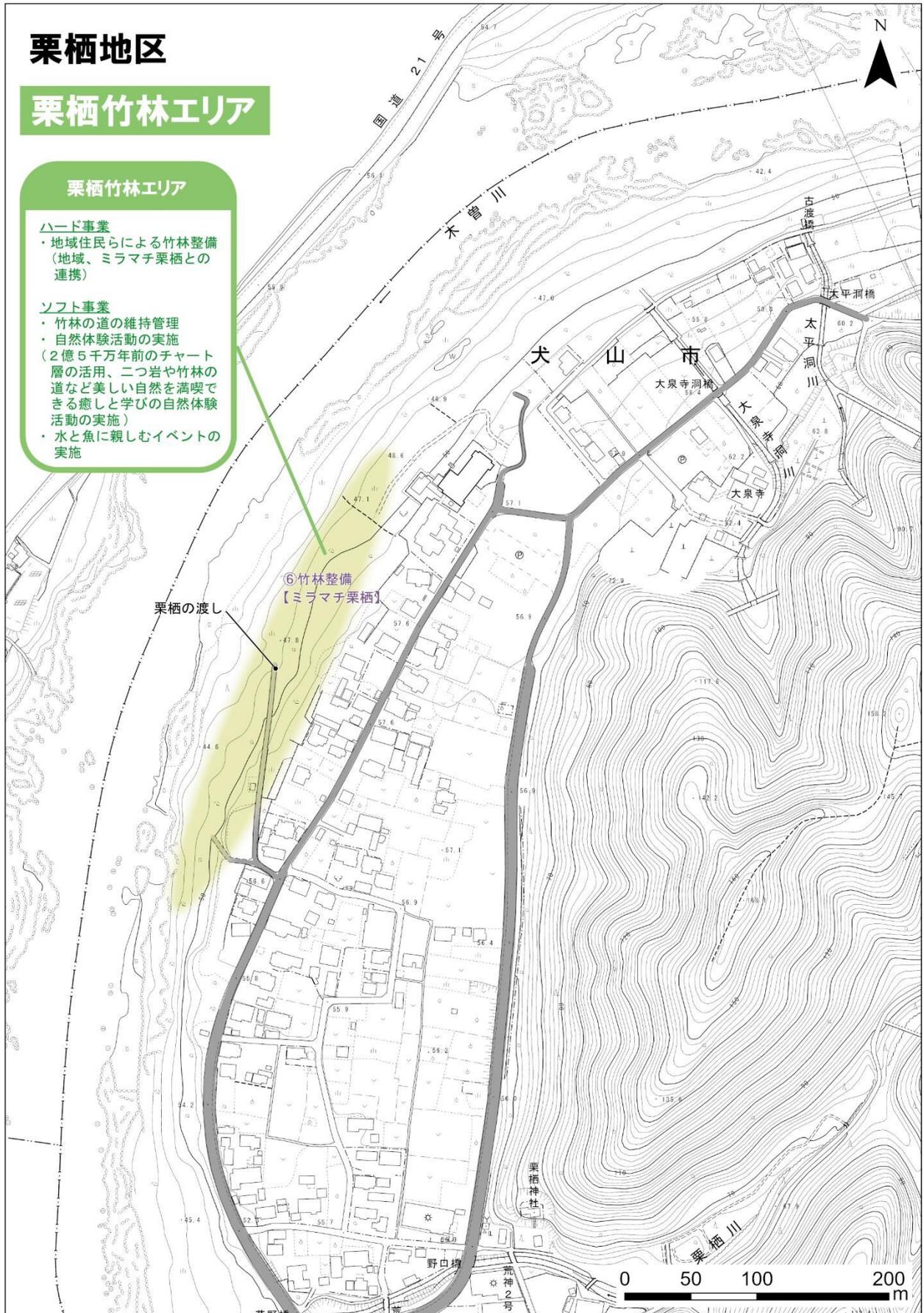
栗栖竹林エリア

ハード事業

- ・地域住民らによる竹林整備
(地域、ミラマチ栗栖との連携)

ソフト事業

- ・竹林の道の維持管理
- ・自然体験活動の実施
(2億5千万年前のチャート層の活用、二つ岩や竹林の道など美しい自然を満喫できる癒しと学びの自然体験活動の実施)
- ・水と魚に親しむイベントの実施



※資料はイメージを示すもので、今後変更する可能性があります。

4. 整備の実現方策

➤ 関連事業の整備計画

- ・犬山城の東側、郷瀬川沿いは犬山城からの動線として重要な接続エリアですが、賑わい創出という視点においては、現状よりも照度を高めるなど工夫が必要と考えます。現時点で具体的な整備計画はありませんが、必要な措置を講じることで、犬山城と木曽川河畔の連続性が生まれ、魅力と回遊性が高まるものと考えます。
- ・木曽川中流域自転車で繋ぐかわまちづくりにより、サイクリングロードを基軸とした整備と利活用促進を今後進められることが見込めます。本市も同計画に積極的に参画し、流域全体が自転車につながり・賑わうまちづくりを推進します。本計画（犬山市かわまちづくり計画）において整備する拠点施設やソフト施策については、12市町のかわまちづくり計画と連携・連動し、相乗的な魅力向上を図ります。

➤ 整備工程

【内田地区】

エリア	主体	整備項目	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	
木曽川河畔空間エリア	犬山市	木曽川河畔遊歩道再整備、市道犬山395号線の改修など	計画登録	設計		施工				
	河川管理者	水際階段、護岸改修、歩道部の嵩上げ	設計		施工					
	市・民間事業者・住民団体等	ソフト施策	(実証実験)						継続実施	
		都市・地域再生等利用区域の検討・指定					検討		指定	
木曽川遊覧エリア・木曽川鵜飼	犬山市	乗船場補修、犬山橋トイレ改修	設計		施工					

※現時点での想定案であり、スケジュールや内容は変更の可能性があります。

【栗栖地区】

エリア	実施主体	整備項目	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
栗栖園地 エリア	犬山市	整地・張芝工、進入路の拡幅工事など	計画登録	設計・施工	設計・施工				
	市・民間事業者・住民団体等	都市・地域再生等利用区域の指定		検討	指定	事業実施			
船着場 エリア	調整中	船着場改修				施工			
桃太郎 社 エリア	桃太郎発展会等	店舗の再整備検討							
栗栖竹林 エリア	ミラマチ栗栖	竹林整備	継続実施						
栗栖 地 区 (全体)	市・民間事業者・住民団体等	ソフト施策	継続実施						

5. 多自然川づくりに関する事項

- ・ 親水護岸（階段・スロープ等）や船着場の整備にあたって、既存施設の改修を基本とし、生物の生息・生育・繁殖環境の保全と河川景観の保全を図るとともに、人が水辺に安全に近づくことができる親水性のある工法を採用していきます。
- ・ また、河川環境変化を国と共にモニタリングを継続して行い、河底低下による環境変化に対しては玉石を投入することにより、生物の生息・生育・繁殖環境の維持・保全を図ります。

6. その他特筆すべき事項

① 犬山市かわまちづくり推進協議会

- 犬山市かわまちづくり推進協議会の経緯
 - 犬山市かわまちづくり推進協議会 委員構成
- などについて掲載予定

②内田・栗栖地区住民アンケート調査の概要

※整理中

※整理中

維持管理計画書

1. 継続的な有効利用に関する計画

- ・ 本計画の策定段階から、住民及び市民活動団体、民間事業者が「犬山市かわまちづくり推進協議会」に参画しており、ソフト事業に対する継続的な利活用、維持管理が可能な体制を構築しています。
- ・ 今後は河川敷地占用許可準則に基づく区域指定を見据え、「犬山市かわまちづくり推進協議会」にて、具体的な事業推進や利活用、管理推進体制について検討していきます。
- ・ 河川敷地占用許可準則の特例措置により河川占用の規制緩和を実施し、施設利用料等を得て、河川敷地における施設の維持管理及び良好な河畔空間の保全・創出を図るための費用に充てていきます。この仕組みを活用し、地域活性化を図るかわとまちのエリアマネジメントを実現していきます。

2. 維持管理計画

- ・ 整備後の施設の占用及び維持管理については、犬山市及び関係団体が主体的に行います。
- ・ 出水等の災害に対する施設被害に関しては、国土交通省が支援し、犬山市及び関係団体が主体的に行います。
- ・ 日常の清掃等維持管理については、犬山市をはじめ、地域団体、住民、民間事業者等との連携により実施します。